

0943

秘

第一二六號

五月十日

軍令第二二號

陸軍軍需審議會ニ於テ審議ノ件覆申

昭和十四年七月三日

陸軍軍需審議會會長 山 脇 正

陸軍大臣 板 垣 征四郎 殿

左記ノ件別紙ノ通審議決定セシニ付覆申ス

左 記

九八式旋回機關銃假制式制定ノ件

九八式固定機關銃假制式制定ノ件

14.7.4

14.7.5

14.7.4

航空本部 14.7.5 付

陸軍軍需審議會會長之印



九八式旋回機関銃
九八式固定機関銃
假制式制定件

昭和十三年



九八式旋回機関銃
九八式固定機関銃
審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

獨國「ラインメタル」社製旋回及固定機関銃ニ就キ制式兵器トシテ
適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判決

本銃ハ航空機用機関銃ニ必要ナル諸要件ヲ充足シアルヲ以テ
航空武器トシテ制定スルヲ適當ト認ム

第三 審査一般ノ成績

一 一般構造

一般構造ハ銃身後座及動利用旋回門子式ニシテ銃身、被筒
尾筒、尾筒底、銃尾機関及附屬部品ヨリ成リ旋回機関銃ニ

在リテハ別ニ照準装置ヲ有ス

其ノ構造ハ附圖第一及第二ノ如シ

本銃ハ彈丸發射セラル、ヤ銃身ハ反動並銃身前端ニ作用ス
ル瓦斯圧ヲ受ケ滑走筒ト共ニ遊底ヲ結合セル儘後退シ次テ
照子ハ尾筒周ノ軌道ニ依リ旋回シ滑走筒ト遊底トノ結合ヲ
解クト同時ニ遊底ヲ加速シテ後退セシメ藥莢ヲ排出シテ逆
鉤ニ鉤スルニ至ラシメ銃身及滑走筒ハ停止ス依テ次發實包
力彈倉又ハ保彈帶ニ依リ藥室上ニ送致セラレアル時引鉄ヲ
引ケハ連發ス、給彈ノ為旋回機關銃ニハ七十五發入眼鏡型
彈倉ヲ固定機關銃ハ五〇〇發用ノ保彈帶ヲ以テ送彈ス
ニ主要諸元次ノ如シ

諸元	旋回機關銃	固定機關銃
口径	七、九二	七、九二
銃全長	一、〇七八	一、一八〇
銃全重量	七、二	一〇、一

三、機能試験成績ノ概要

弾倉重量 磅	二、三	保彈子帶(五〇〇磅)	二、二
同(實包七五弾入)群	四、二	實包(五〇〇磅)	一五、三
彈量 瓦	普通ニテ徹首一五〇瓦(一〇三)	同	上
實包重量 瓦	二六、二	同	上

本機関銃ハ機能優秀ニシテ故障ノ発生極メテ少ク故障ノ原因探求迄故障ノ排除モ亦簡單ナリ即チ旋回機関銃ニ在リテハ抽筒不良及突込概不一〇〇〇弾ニ一回生起シ固定機関銃ニ在リテハ後退不足概不一〇〇〇弾ニ一回生起スルノ程度ナリ更ニ固定機関銃ニ於テハ円板射撃ニ於ケル射彈ノ飛散小ニシテプロペラノ貫通故障モ亦生起セス

四、命中精度

本機関銃ハ其ノ支吳銃身軸線ト一致スルヲ以テ連續射撃ニ

伴フ銃ノ振動少ク命中精度良好ナリ

五、部品ノ耐久度

本機関銃ハ部品ノ耐久度大ニシテ一万発々射間ニ毀損セシ
部品ハ旋回機関銃ニ在リテハ撃莖ニ撃発子一、蹴子一、固定機
関銃ニ在リテハ撃発子轉輪一ヲ破損セシノミニシテ主要部
品ノ龜裂等ヲ生スルモノナシ

六、耐寒度

酷寒地ニ於ケル試験ハ未タ之ヲ實施セサルモ低温實驗室ニ
於テ零下四〇度迄試験ヲ行ヒタルニ機能良好ニシテ酷寒地
ニ於テモ機能良好ナルモノト認ム

七、操用ノ便否

本機関銃ハ小型輕量ニシテ重量七、二磅、七五発入彈倉ヲ装シ
タル場合ニ於テモ一、四秒ニ止リ銃耳ノ取付回轉式ニシテ
照準操作容易且操用頗ル便ナルヲ以テ之ヲ採用スルコトニ
依リ初メテ流線型胴体ニ適應シ廣射界ヲ取り得ヘシ

八、實用試験ノ結果明野陸軍飛行學校ノ旋回機関銃ニ對スル意

見次ノ如シ
ノ操用性

八九式ニ比シ著シク良好ナリ

2. 命中精度竝ニ照準法ノ難易

命中精度ハ八九式ニ比シ著シク良好ナリ

特ニ精密照準ノ持續可能ニシテ射彈ヲ命中セシメ得タリ

3. 銃ノ故障極メテ尠ク又故障發生スルモ其ノ排除容易ニシ

テ八九式ニ比シ著シキ利アリ

本實用試験間射撃時ノ故障一回モ發生セス又故障發生ス

ルモ本銃ノ構造上排除容易ナルヘシ

4. 本銃ヲ速ニ制式トシテ採用スルヲ要ス

第四 審査經過ノ概要

一、昭和十二年五月、イリス、商會ヨリ獨國「ラインメタル」社製「九
耗航空機用機関銃（旋回式及固定式模型）」其ノ他銃砲ノ調査

ヲ受ケタキ旨陸軍省ニ願出ツ

二同年七月二十日陸普第四三三三號ヲ以テ陸軍省副官ヨリ陸軍航空本部長ニ對シ陸軍技術本部ト協力シ前記願出兵器ノ調査實施方通牒セラル

三同年九月「イリス」商會提出ノ「ラインメタル」製旋回機關銃ニ就キ陸軍航空技術研究所ハ陸軍技術本部及明野陸軍飛行學校ト協力シ地上ニ於ケル命中機能試驗並ニ空中ニ於ケル布板的及吹流的射撃ヲ實施セリ

四同年十一月前記商會提出ニ係ル固定機關銃ニ就キ陸軍航空技術研究所ニ於テ基礎試驗ヲ實施セリ

五昭和十三年二月陸軍科學研究所低温實驗室ニ於テ旋回、固定、共ニ零下四〇度迄ノ耐寒機能試驗ヲ實施セリ

六同年三月千葉縣富津ニ於テ兩種銃ノ命中機能及耐久試驗ヲ實施セリ

七同年四月以降富津及陸軍航空技術研究所ニ於テ屢次ノ試驗

射撃ヲ實施セリ

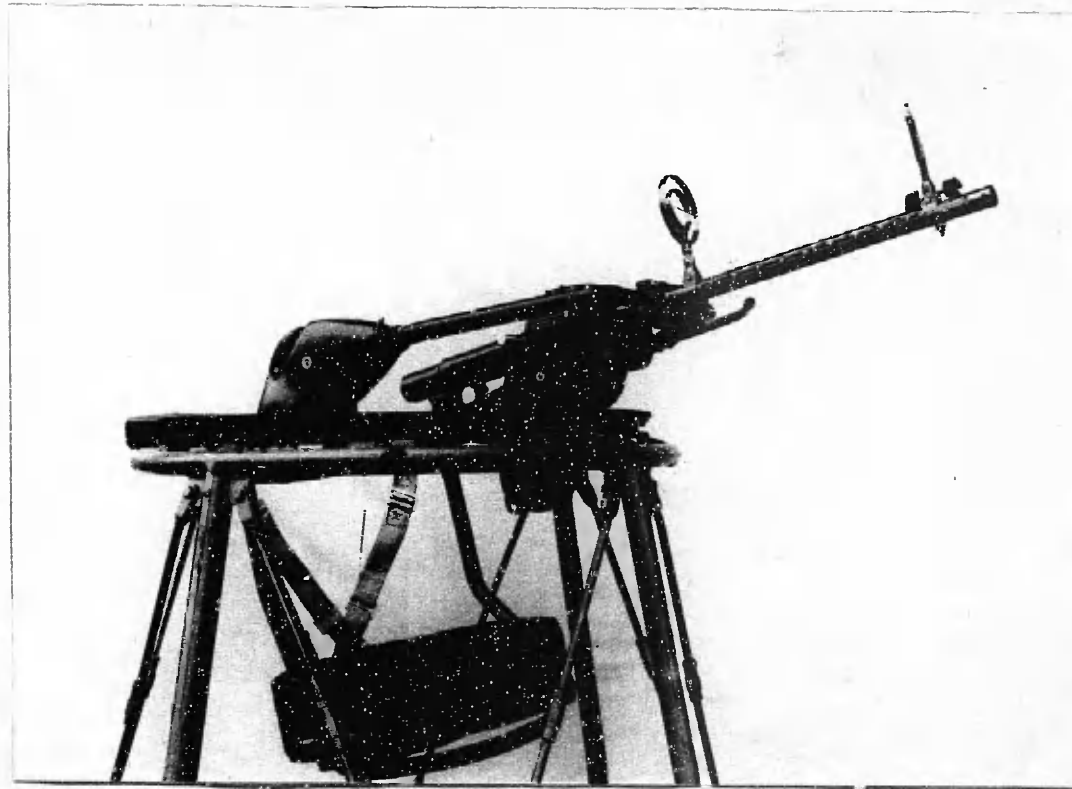
八同年五月明野及濱松陸軍飛行學校ニ對シ旋回機關銃ノ實用
試験ヲ委託シ六月末終了セリ

九同年八月明野陸軍飛行學校ニ對シ固定機關銃ノ實用試験ヲ
委託シ目下試験中ナリ

以上ノ調査試験ノ結果旋回固定共ニ成績優秀ニシテ制式武器
トシテ採用スルヲ適當ナリトノ判定ヲ得タリ

附圖第一 九八式旋回機関銃

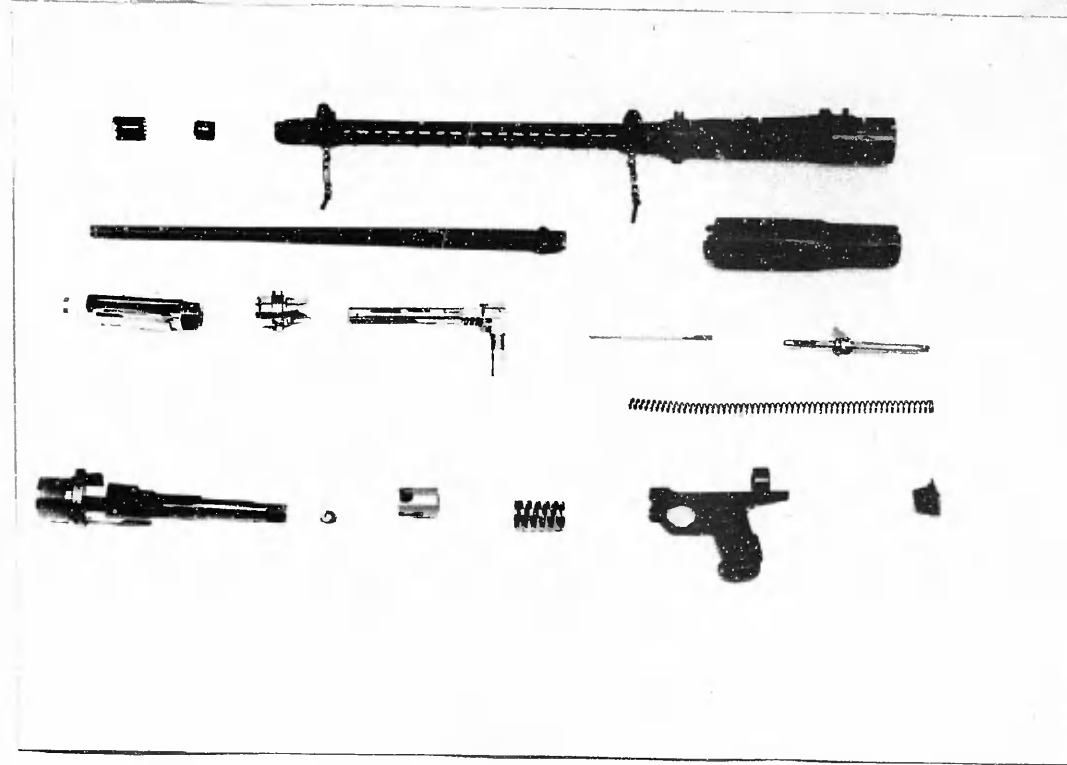
其一 一般(銃架共)



0952

附圖第一 九八式旋回機関銃

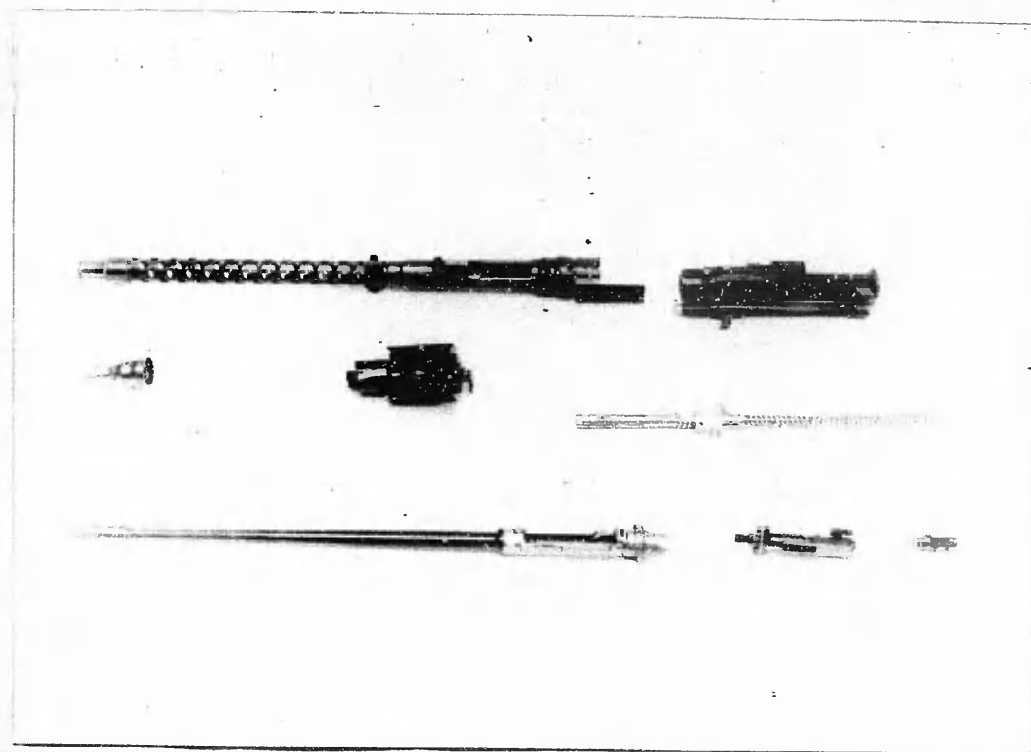
其ニ 分解狀況



0953

附圖第二 九八式固定機関銃

其一 分解状況



0954

附圖第二 九八式固定機關銃

其二 一般(發射聯動機共)



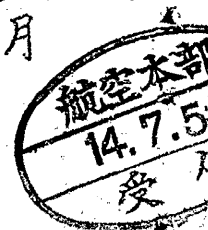
0955

9560



九八式旋回機関銃構造要領

昭和十三年八月
陸軍航空本部



九八式旋回機関銃構造要領

第一用 途

飛行機用旋回機関銃トシテ使用スルモノトス

第二 構造及機能ノ概要

本銃ハ銃身後座回轉門子式ニシテ被筒、尾筒、尾筒底、銃尾
 機関、銃身、照準器及附屬部品ヨリ成リ、發射ノ反動及銃身
 前端ニ受クル瓦斯圧ニ依リ銃身後退スルヤ滑走筒ヲ介シ之ト
 結合スル門子ハ尾筒筒ノ軌道ニ依リ旋回シ滑走筒ト圓筒トノ
 結合ヲ解クト同時ニ圓筒ヲ加速後退セシメ藥莢蹴出セラレ次
 デ復座ばねノ力ニ依リ次發實包ヲ裝填シ連發ス
 銃ハ支軸ニ依リ銃架ニ裝備セラレ上部ニ照門環及照星ヲ装着
 ス

ハ被筒ハ被筒後環ヲ以テ尾筒ニ連結シ内部ニ銃身ヲ保持シ外

部ニ支軸及照門環照星ヲ附ス

2. 尾筒ハ被筒下尾筒底トノ間ニ介在シ上部ハ彈倉ニ取付部ヲ下部ハ藥莢蹴出窓ヲ形成シ内部ニ銃尾機關ヲ包藏ス

3. 尾筒底ハ尾筒ニ結合セラレ圓筒ノ前進後退運動ノ誘導ヲナス

スト共ニ銃尾ヲ閉塞シ安全裝置及擊發機構ノ一部ヲ收容ス

4. 銃尾機關ハ滑走筒、門子及圓筒ヨリ成リ滑走筒ハ銃身ニ結合シテ之ト共ニ滑動シ其ノ後部ニ自由ニ旋回シ得ル如ク結合セル門子ハ圓筒ノ段隔螺ト啮合ヒテ圓筒ノ閉鎖作用ヲ確實ナラシム、圓筒ハ其ノ内部ニ擊莖ヲ收容ス

5. 銃身ハ被筒前部及滑走筒ニ依リ其ノ兩端ヲ支持セラレ其ノ前端ニ發射瓦斯ノ圧力ヲ受ケ後座力ヲ生起ス

6. 照準器ハ移動照星及照準環ヨリ成リ移動照星ハ自機速度ニ應ズル如ク調整スルコトヲ得

7. 附屬部品ハ併列鼓狀彈倉、打殼受及裝填器ニシテ彈倉ハ實包七五發ヲ收容シ左右ヨリ交互ニ送彈ス

第三 主要諸元

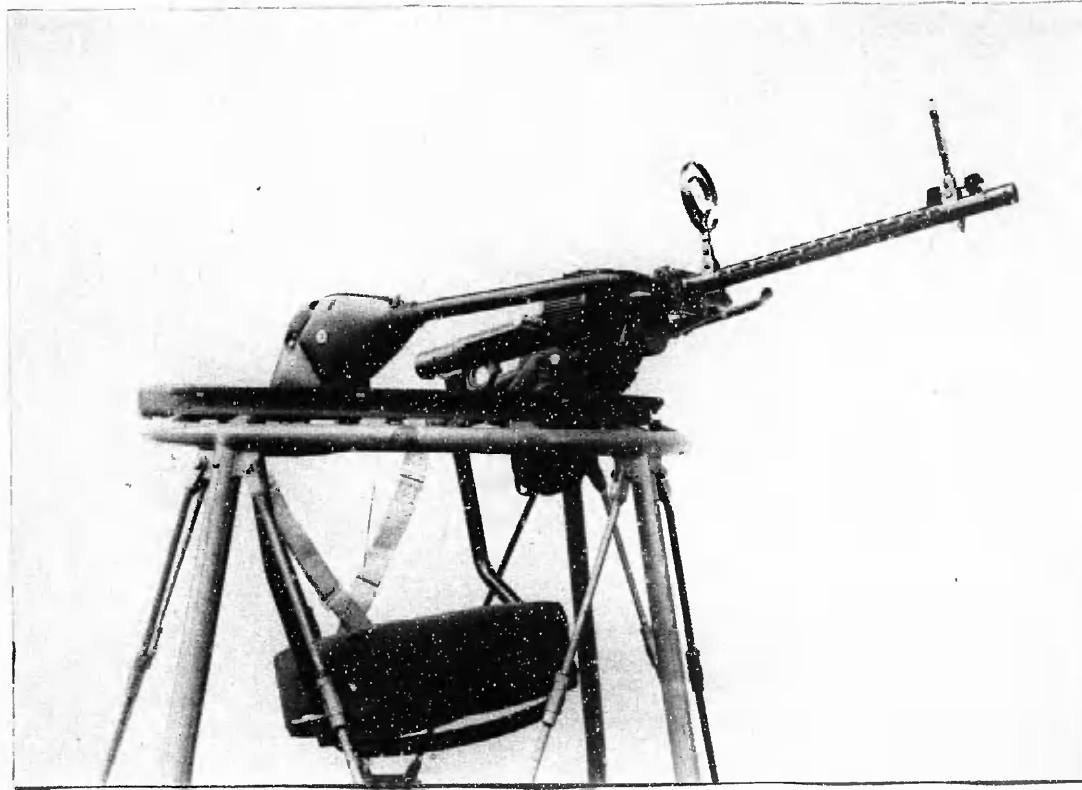
同	同	彈	彈倉(実包七五發入)重量	空彈倉重量	同	同	初	發射速度	重	銃身長	全長	口径
(曳光彈)	(徹甲彈)	(普通彈)			(曳光彈)	(徹甲彈)	(普通彈)					
一〇・三瓦	一・五瓦	一・二七瓦	四・二瓦	二・三瓦	八〇二米/秒	七八八米/秒	七九二米/秒	一・一〇〇分	七・二瓦	六〇〇粒	一・〇七八粒	七・九二粒

0960

実包重量(普通弾)

二六・二瓦

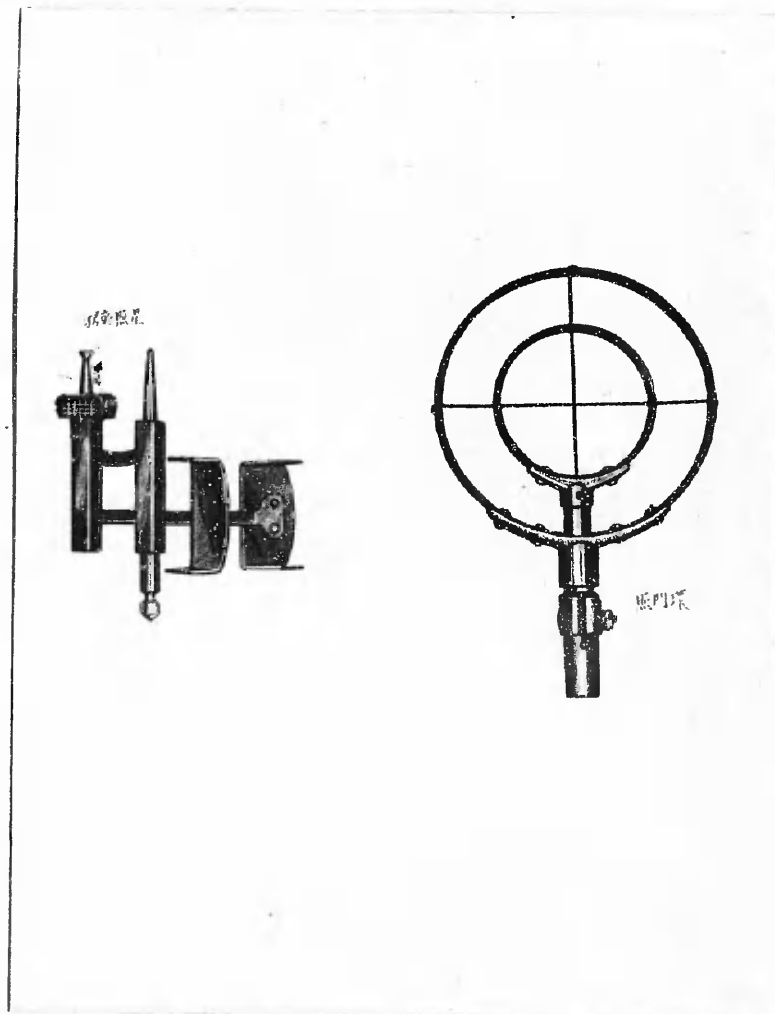
附圖第一 九八式旋回機関銃



0961

8960

附圖第三 九八式旋回機関銃
照準器



0964



九式固定機関銃構造要領

昭和十三年八月
陸軍航空本部



九八式固定機関銃構造要領

第一用 途

飛行機用固定機関銃トシテ使用スルモノトス

第二 構造及機能ノ概要

本銃ハ銃身後座回転子式ニシテ被筒・尾筒・尾筒底・銃尾機関
 装填架・引鉄及銃身ヨリ成リ發射ノ反動及銃身前端ニ受クル尾
 斯圧ニ依リ銃身後退スルヤ滑走筒ヲ介シ之ト結合スル門子ハ
 尾筒周ノ軌道ニ依リ旋回シ滑走筒ト円筒トノ結合ヲ解クト同
 時ニ円筒ヲ加速後退セシメ藥莢蹴出セラレ次デ復座ハ收ノ力
 ニ依リ實包ヲ装填スルト共ニ次發實包ヲ送彈シ連發ス
 銃ハ前後兩支軸ニ依リ堅固ニ機体ニ装着セラル
 被筒ハ被筒後環ヲ以テ尾筒ニ連結セラレ内部ニ銃身ヲ保持

シ外部ニ前方支軸ヲ附ス

2. 尾筒ハ被筒ト尾筒底ノ間ニ介在シ上部ニハ装填架ヲ装着シ下部ハ藥莢蹴出窓ヲ形成シ内部ニ銃尾機関ヲ包藏ス

其ノ補強セラレタル球形部ハ後方支軸ヲナス

3. 尾筒底ハ尾筒ニ結合セラレ円筒ノ前進後退運動ノ誘導作用ヲナスト共ニ銃尾ヲ閉塞シテ安全装置及撃發機構ノ一部ヲ收容シ之ニ引鉄ヲ装着ス

4. 銃尾機関ハ滑走筒・門子及円筒ヨリ成リ滑走筒ハ銃身ニ結合シ之ト共ニ滑動スルト同時ニ其ノ轉輪ニ依リ装填架ノ導輪ヲ介シテ送彈輪ヲ回転セシメ送彈作用ヲ行ハシム

門子ハ之ニ對シ自由ニ旋回シ得ル如ク結合セラレ円筒ノ段隔螺ト啮合ヒテ其ノ閉鎖作用ヲ確實ナラシム

円筒ハ其ノ内部ニ擊莖ヲ收容ス

5. 装填架ハ体・送彈輪及導輪等ヨリ成リ滑走筒ノ後復座ニ聯動シテ保彈子帶ニ挿着シタル実包ヲ逐次円筒通路ニ送致ス

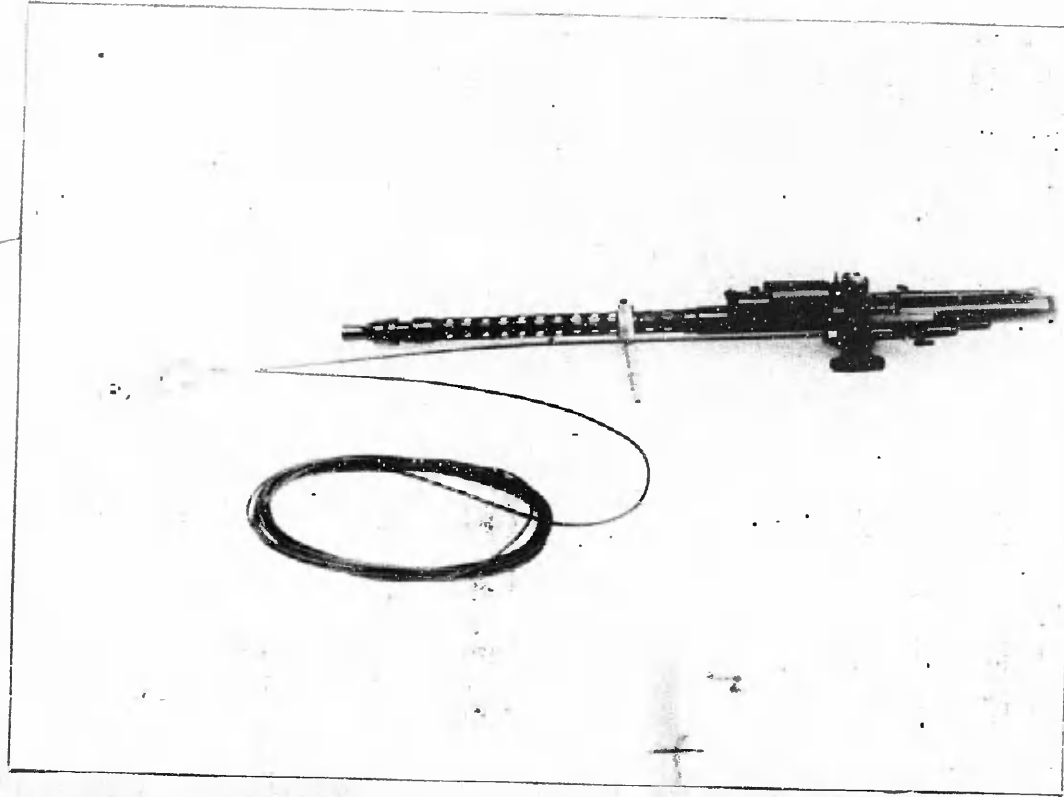
第三 主要諸元

引鉄ハ手動及聯動ノ兩用ニ供スル事ヲ得ル構造ニシテ聯動ノ際ハ發射時刻ヲ規正スル爲同筒ノ閉鎖完了前ニ聯動機ヨリ作用ヲ受クルモ擊發スルコトニ異キ機構ヲ有ス
 銃身ハ被筒前部及滑定筒ニ依リテ其ノ兩端ヲ支持セラレ其ノ前端ニ發射瓦斯ノ圧力ヲ受ケ後座力ヲ生起ス

口徑	七・九二耗
全長	一一・八〇耗
銃身長	六・〇〇耗
重量	一・〇一耗
發射速度	一、〇〇〇發分
初速(普通彈)	七九二米/秒
同(徹甲彈)	七八八米/秒
同(曳光彈)	八〇二米/秒

保彈子帶重量(五、〇發分)	二・二斤
同 (実包五、〇發分)	一・五・三斤
彈 量 (普 通 彈)	一・二・七斤
同 (徹 甲 彈)	一・一・五斤
同 (曳 光 彈)	一・〇・三斤
実包重量 (普 通 彈)	二・六・二斤

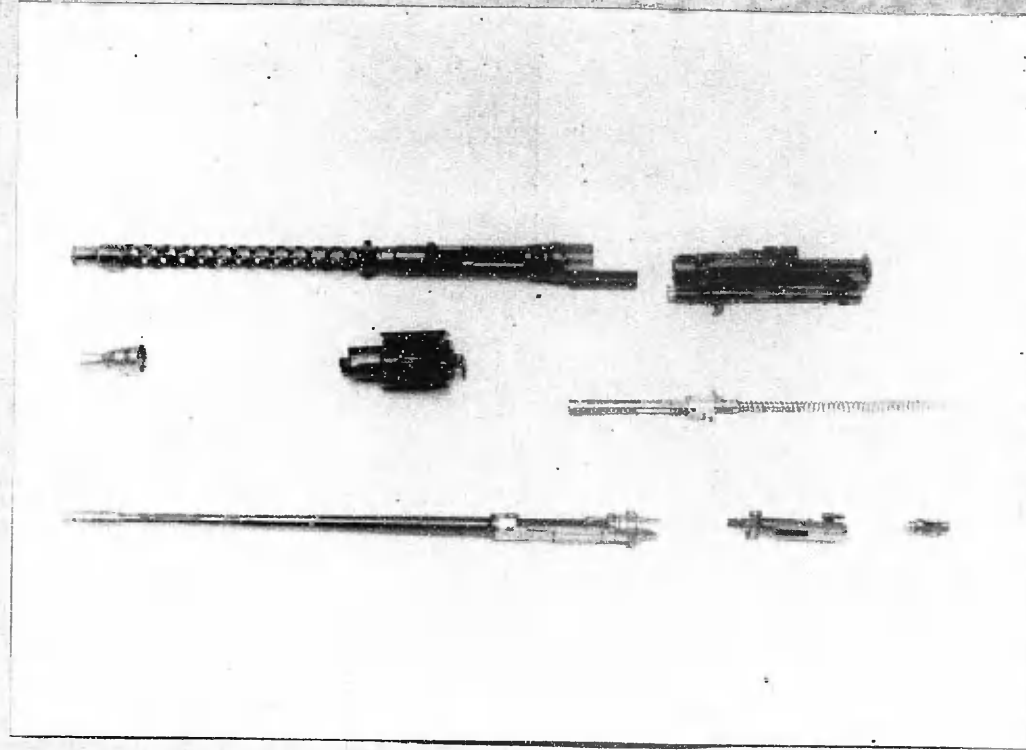
附図第一 九八式固定機関銃



0960

附圖第二

九八式固定機関銃
分解状況



0970